

NPO法人 マリンネットワーク

平成 27 年度 総会資料

日時 平成 27 年 5 月 15 日 (金) 14:00～14:45

場所 TKP ガーデンシティ札幌駅前 3A 会議室

(北海道札幌市中央区北 2 条西 2-19 TKP 札幌ビル 3 階)

NPO法人 マリンネットワーク

平成 27 年度総会 次第

日時 平成 27 年 5 月 15 日（金） 14:00～14:45

場所 TKP ガーデンシティ札幌駅前 3A 会議室

1 開 会

2 総会定足数報告

3 理事長挨拶

4 議長選出

5 総会

1) 総会開会宣言

2) 議事録署名者選任

3) 議案審議

第 1 号議案 平成 26 年度事業報告について

第 2 号議案 平成 26 年度収支決算報告並びに監査報告について

第 3 号議案 平成 27 年度事業計画(案)について

第 4 号議案 平成 27 年度収支予算(案)について

4) 総会閉会宣言

6 その他

7 閉 会

第1号議案

平成26年度 事業報告

■NPO法人マリンネットワーク 平成26年度 総会・講演会・交流会

日時：平成26年5月23日（金）13：00～17：00

会場：札幌きょうさいサロン8階「高砂」

【プログラム】

○基調講演 15：00～15：45 「地域活性化のさまざまな形」 講師：臼井 純子氏

商品開発・マーケティングにおいては、販売するものはモノそのものだけでなく、地域が創る無形資産と一緒に売っていることを、高知県馬路村と北海道遠別町の事例を通して紹介いただいた。

販売・流通、サプライチェーンマネジメントでは、実店舗での販売と直販やインターネット販売など直接的搬送の組み合わせが重要であり、地域活性化とは、精神論だけではなく、経済効果をもたらす施策と経営能力を持つ人材が地域には必要であることなどをお話しいただいた。

そのような人材育成を実践している事例として、臼井さんが講師として参画されている「土佐まるごとビジネスアカデミー（MBA）」（高知県主催）では、地域のビジネスは家業から企業へ、事業化から産業化へと向かう必要があるため、受講生は経営知識と実践力を習得し、着実な成果を上げていることが紹介された。

最後に、地域のビジネスは基本を忠実に実行しながら、少なくとも成功までに10年以上の努力の積み上げが必要であることがまとめとして述べられた。

○トークセッション 15：45～16：45 「女性の視点から見た水産の魅力と地域の活性化」

NPO法人マリンネットワークの遠藤仁彦理事（国土交通省港湾局技術企画課技術監理室長）がコーディネーターを務め、基調講演講師の臼井 純子氏、折谷 久美子氏（NPO法人マリンネットワーク理事、NPO法人スプリングボード・ユニティ21理事長）、古屋（NPO法人マリンネットワーク理事長）がパネリストを務め、「女性の視点から見た水産の魅力と地域の活性化」についてディスカッションを行った。

○NPO法人マリンネットワークの活動報告 16：45～17：00

古屋理事長が、平成25年度の活動報告をしました。



○交流会：16：00～17：30 きょうさいサロン

会員、一般の方々あわせ、約25名の出席を頂きました。

■ 漁村地域とそれ以外との交流促進事業

(1) 南かやべ前浜産養殖真コンブ 小分けオーナーの実施

「南かやべ前浜産養殖真コンブ」とそのオーナー制について

函館市の南かやべ地区は、養殖コンブ発祥の地です。

南かやべ地区の真コンブは「白口浜真コンブ」と呼ばれ、身が厚く切り口が白く見えることが名前の由来となっており、江戸時代に松前藩が朝廷や将軍家に上納していたことから「献上コンブ」とも呼ばれています。

生産者の収入の安定化と消費者の方へ市価より安くコンブを食べていただきたいとの思いで、南かやべ漁協大船地区青年部が始めた養殖コンブオーナー制は、オーナー様の養成綱1本分（5mロープ）のコンブ約40本を、1年かけて育成し製品化してお届けするものです。オーナー1口（代金28,350円（消費税および送料などその他の費用含む））で、春（5月中旬）は早煮コンブ2kg、秋（10月下旬）はダシコンブ6kgが発送されます。

しかし、1口8kgのコンブは1家庭で消費するには十分すぎる量であり、また1口の代金も高額であることから、一般家庭に幅広くオーナー制が浸透できていない現状にあります。

このオーナー1口を、マリネットワークが小分けして販売

NPO法人マリネットワークにおける地域の魅力的な水産物を多くの方にとって頂く活動の一環として、当NPO法人が養殖コンブオーナーとなり、一般家庭が購入しやすいように小分けして販売することとしました。これによって、もっと気軽にオーナー制のコンブを試していただき、南かやべ地区の養殖コンブの魅力をより幅広い方々に知って頂ければと考えています。

平成26年度は

- 早煮コンブ13袋（150g/袋）
- ダシコンブ30袋（200g/袋）

限定で、1袋各1,000円（消費税および送料込）で販売。早煮コンブは5月中旬、ダシコンブは10月下旬にお送りしました。平成27年度も継続していけるような取組にしていきたいと思っております。



(2) 根室の歯舞（はぼまい）地域のコンブ、落石（おちいし）地域のコンブの販売

南かやべの「白口浜真コンブ」とは違う「ながコンブ」という種類のだし用と早煮コンブです。
歯舞早煮コンブ（80g／袋）600円，歯舞だしコンブ（80g／袋）500円，歯舞細切りコンブ（100g／袋）600円，霧娘（きりっこ）コンブ（200g／袋）1,000円（いずれも消費税および送料込）



■持続可能な漁村地域づくりに関する事業

フィッシュラン北海道 のプラットフォームを作成しました。引き続き、今後も作業をつづけます。

■ 漁村地域の担い手支援に係る事業

(1) 第6回マリンナレッジサークル(漁村勉強会)

日時：2014年8月8日（金）13：30～16：30

場所：一般社団法人寒地港湾技術研究センター会議室（札幌市北区北11条西2丁目2番17号 センtral札幌北ビル5階）

積丹半島地域の現状や課題、水産を核とした地域振興の取り組み等（マリンビジョンなど）について積丹半島地域の古平町、積丹町、神恵内村から講師をお招きして、下記の通り開催しました。講師含め17名の参加をいただきました。

1. 古平町、積丹町、神恵内村から「地域の現状や課題、水産を核とした地域振興の取り組みなど（マリンビジョンなど）」のご紹介
 - 「古平町水産業の現状と課題」 古平町産業課水産係 係長 田名辺信行 様
 - 「積丹町の水産業と地域の現状と課題」 積丹町農水産課 課長 西川 源 様
 - 「神恵内村の取り組み 神恵内村藻場∞LAND プロジェクトの成果と課題」 神恵内村産業建設課水産農林係 係長 板倉宏至 様
2. 意見交換「積丹半島地域の業と地域振興の課題と今後について考える」
コーディネーター 遠藤仁彦理事

【内容報告】

意見交換では講師の方への質問を含め、約2時間にわたり参加者全員で熱心な討議を行いました。

○ 古平町：地域の人口・産業の概況、水産業の概況、タラコ加工を主体とした水産加工業協同組合の経営破たんに関する内容と地域の雇用や経済的影響、都市漁村交流の状況などについて報告いただいた。

○ 積丹町：地域の人口・産業の概況、水産業の概況、漁業振興の取り組み（企業との連携「JTの森積丹」、「余別・海HUGくみたい」）の紹介、漁業振興上の課題や権後の漁業振興対策などについてご報告いただいた。

○ 神恵内村：磯焼けの状況、神恵内村藻場∞LANDプロジェクト事業の内容、ウニ食害防止フェンスの設置とその効果、藻場LAND造成とその効果などについてご報告いただいた。



(2)第7回マリンナレッジサークル（「みなと講演会(紋別)」のフォローアップ）の開催報告

日 時：2015年2月7日（土）14:00～15:00

場 所：海洋交流館会議室（紋別市）

「みなと講演会（紋別）」のフォローアップとして、みなとオアシス「もんべつ」の中核施設である海中展望塔オホーツクタワーやガリンコ号の発着ターミナルである海洋交流館を運営しているオホーツク・ガリンコタワー（株）の職員の方々や紋別市で観光振興を担当している方々と、今後のオアシスの魅力向上について意見交換しました。

（注）通常のマリンナレッジサークルはNPO 会員に参加を公募して開催しますが、今回は「みなと講演会（紋別）」のフォローアップとして紋別の関係者限定で開催しました。

○参加者：

- ・オホーツク・ガリンコタワー（株）（加藤公之常務、川代悦矢総務部長、村井克詞研究員）
- ・紋別市観光交流推進室（今泉貴裕副参事、片倉靖次主事）
- ・みなとオアシス「もんべつ」運営協議会（竹内珠己代表）
- ・北海道開発局紋別港湾事務所（中村篤所長）
- ・NPO 法人マリンネットワーク（遠藤仁彦理事）



○内容報告

2014年10月実施の「みなと講演会（紋別）」のパネルディスカッションでは、オホーツクタワーの魅力向上の方向性としては“本物”を体験してもらうこと等の話がありました。あらためて、将来を担う方々から見た現状の課題や今後の可能性について懇談したところ、次のような意見がありました。

【オホーツクタワー・海洋交流館等のさらなる可能性】

- ・オホーツクタワーを竜宮城のようにしたい。そのためにタワーにもっと魚が集まる仕組みを考えたい。
- ・ホタテに目があることを知らない人が大半。オホーツクタワーに学習機能を持たせて、“本物”を体験してもらうような教育の場としても活用していきたい。
- ・ネットを活用して、北海道外に対してもタワーが教育の場として貢献できる方法も考えられるのではないかと。
- ・道立流氷科学館とタワーがさらに連携を強めることによって、魅力を高めることができるのではないかと。
- ・タワーでオホーツク海の豊かさを体験してもらい、そこで海の幸の美味しさの理由をタワーならではの科学的なアプローチで伝えられると面白い。
- ・海外からのお客様に対しては多言語パンフレットを準備しているが、地域ぐるみのホスタピリティで対応（紋別に住んでいる外国人との連携など）すると、海外旅行者の口コミ評価が高まるかもしれない。
- ・夏場のガリンコ号の活用策として、ホタテ操業見学とか定置網の水揚げ見学に活用し、水揚げした水産物を観光客に食べてもらうような工夫をすると面白いかもしれない。
- ・海洋交流館のインフォメーションセンター機能をより分かりやすく、よりエリアの魅力が伝わる工夫をしていくことが重要である。
- ・予算など制約条件がある中で、まずはできることを実行していくことが重要である。

■情報収集及び調査研究

- (1) 浜の活力再生プラン（苫小牧）アドバイザー 契約金額：162,000円（税込）
- (2) マリンビジョン期成会報告書 契約金額：180,000円（税込）

■その他

(1) みなと講演会（紋別）

日時：平成26年10月25日（土）16:00～18:35

場所：紋別市ホテルオホーツクパレス

主催：みなとオアシス「もんべつ」運営協議会・NPO法人マリンネットワーク、寒地港湾技術研究センター

参加者：約250名

○特別講演 武部 新 衆議院議員「オホーツクから北海道を新に！」

講演内容

- ・それぞれの地域にはそれぞれの自然に合った生活がある。
- ・みなとを中心としたまちづくりは、新たな段階に入っており、みなとオアシスはそのひとつである。海の近くに住んでいる我々は重要なことである。
- ・増田レポート（増田寛也（元総務相・岩手県知事）が日本創世会議・人口減少問題検討分科会の議長となってとりまとめた報告）によると日本の人口減少対策は待ったなしの状況であり、定住化を進めていかなければならない。雇用をさせる産業の推進、住む環境（病院、教育）を整え若い世代が安心して暮らせる社会が必要。
- ・交流人口を増やす方法として、外国人の受入体制を考える。レンタカーや自転車で回る台湾外国人が増加している。交通標識を多言語化していく必要。
- ・台湾では「北海道」というブランド力があり、それを効果的に使うことが重要。
- ・サハリンは北海道に魅力を感じており、紋別を特別区にしてロシア観光客を受け入れるなど、地元から大きな提案をしたらよい。
- ・紋別のように港湾も空港もあるまちは少ない。地方都市のグローバル化が重要。オホーツク海にはメタンハイドレードがあるとされており、エネルギー供給基地となる可能性がある。
- ・まちを元気にするためには人材が最も重要であり、リーダーを育成していかなければならない。

○講演 高田 昌行産業港湾課長「みなとまちの賑わい」

講演内容

- ・「ないものねだり」から「あるもの探し」へというメッセージを盛り込みながら、海からアプローチした紋別港のポテンシャルについて触れつつ、全国のみなとオアシスの事例紹介、クルーズ100万人時代に向けたクルーズに関する紹介等が行われた。

○パネルディスカッション

- 【パネリスト】
- ・加藤公之 氏（オホーツク・ガリンコタワー（株）常務取締役）
 - ・竹内珠己 氏（みなとオアシス「もんべつ」運営協議会代表）
 - ・出塚容啓 氏（一般社団法人紋別観光協会会長）
 - ・宮川良一 氏（紋別市長）

・渡辺玲子 氏（紋別漁業協同組合女性部長）

【アドバイザー】 中島靖 氏（国土交通省北海道開発局港湾空港部港湾計画課長）

【コーディネーター】 遠藤仁彦 氏（NPO 法人マリネットワーク理事）

内容

- ・ 紋別市長等のみなとオアシス「もんべつ」の関係者がパネラーとなり、高田課長の講演をヒントに、「紋別港を活用した地域活性化を考える」というテーマで意見交換。
- ・ パネラーからは来年の宮古開催の sea 級グルメに紋別から参加する旨の宣言が出されると共に、意見交換の中で、クルーズの誘致、北海道みなとオアシスマルシェ（仮称）等を取り組んでいくことが確認された。



(2) 原稿執筆

「持続可能な漁業地域にむけて～豊かな地域づくりのためのコーディネートと人づくり」

NPO法人マリネットワーク 理事長 古屋温美

（ほくとう総研 機関紙 NETT 第87号 p10～13）

第2号議案

平成26年度 NPO法人に係わる収支決算書

会計期間：平成26年4月1日～平成27年3月31日

NPO法人マリネットワーク

単位：円

科目	科目	H26予算(A)	H26決算(B)	(B)-(A)	備考
1. 収入の部		1,290,200	1,455,345	165,145	
1. 会費収入		900,000	901,000	1,000	
	個人会員	350,000	351,000	1,000	正94人、賛36人(H27.3.31現在)
	法人会員	550,000	550,000	0	正49口、賛6口(H27.3.31現在)
2. 事業収入		310,000	534,200	224,200	
	漁村地域とそれ以外との交流促進事業	20,000	45,500	25,500	南かやベオオーナー制真コンブ、歯舞、落石
	持続可能な漁村地域づくりに係る事業	0	0	0	フィシュラン北海道
	漁村地域の担い手支援に係る事業	40,000	0	-40,000	ナレッジサークル参加費
	情報収集及び調査研究	100,000	342,000	242,000	浜の活力再生プラン(苫小牧)、マリナビジョン報告書作成費
	その他	150,000	146,700	-3,300	総会・交流会会費、原稿料など
3. 預貯金利子		200	145	-55	
4. 寄付金等収		50,000	10,000	-40,000	
5. 補助金等収		30,000	0	-30,000	
6. 雑収入		0	10,000	10,000	
2. 支出の部		1,130,000	1,128,314	-1,686	
1. 事業費		625,000	1,002,844	377,844	給料手当、会議費、旅費交通費計上
	①漁村地域とそれ以外との交流促進事業	25,000	55,297	30,297	南かやベオオーナー制真コンブ小分け
	②持続可能な漁村地域づくりに係る事業	150,000	0	-150,000	フィシュラン北海道
	③漁村地域の担い手支援に係る事業	100,000	4,752	-95,248	ナレッジサークル
	④情報収集及び調査研究	50,000	106,860	56,860	
	⑤その他	300,000	835,935	535,935	総会会場費、交流会費、講師謝金など
2. 一般管理費		505,000	125,470	-379,530	
	給料手当	100,000	30,000	-70,000	
	消耗品	100,000	51,756	-48,244	
	通信費	10,000	31,154	21,154	
	外注費	10,000	0	-10,000	
	荷造運賃発送費	35,000	0	-35,000	
	会議費	40,000	0	-40,000	
	旅費交通費	200,000	0	-200,000	
	租税公課	5,000	0	-5,000	
	支払手数料	5,000	7,560	2,560	
	その他	0	5,000	5,000	諸会費
当期収支差額		160,200	327,031	166,831	

監 査 報 告 書

平成 27 年 5 月 / 日

NPO 法人マリンネットワーク
理事長 古屋 温美 殿

NPO 法人マリンネットワーク
監事 吉水 守 
宮下 晃一 

私たち監事は、平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日までの平成 26 年度における
会計の監査を行いました。

諸帳簿、収支決算書、預金通帳および関係書類に基づき監査した結果、その内容が適正か
つ経理事務が正確であることを証明します。

第3号議案

平成27年度 事業計画(案)

■NPO法人マリネットワーク 平成27年度総会・講演会・交流会

日時：平成27年5月15日（金）

総会14:00～14:45、講演会15:00～17:15、交流会17:30～19:00

場所：TKPガーデンシティ札幌駅前（札幌市中央区北2条西2-19 TKP札幌ビル）

総会・講演会：3階3A会議室、交流会：3階3E会議室

【プログラム】

○総会（14:00～14:45）TKPガーデンシティ札幌駅前 3階3A会議室

○講演会（15:00～17:00）TKPガーデンシティ札幌駅前 3階3A会議室

講演 15:00～16:00

- ・濱口英代氏「和田島の女性パワーで 浜(漁業地域)を元気に!!」
- ・高橋泰子氏「女性部の力で守ってきた「のれん」ーそのときを精一杯生きようー」
- ・山口加津子氏「ホッキへの熱い思いが支える苫小牧漁協女性部の夢」

トークセッション 16:00～17:00 「漁業地域における女性の活躍とその推進について」

- ・スピーカー：濱口英代氏，高橋泰子氏，山口加津子氏
- ・コーディネーター：遠藤 仁彦氏
(NPO法人マリネットワーク理事、国土交通省港湾局技術企画課技術監理室長)

総合司会：折谷久美子氏

(NPO法人マリネットワーク理事・NPO法人スプリングボード・ユニティ21理事長)

NPO法人マリネットワークの活動報告 17:00～17:15

- ・古屋温美（NPO法人マリネットワーク理事長）

○交流会（17:30～19:00）

会場：TKPガーデンシティ札幌駅前 3階3E会議室

■ 漁村地域とそれ以外との交流促進事業

- ・南かやべ養殖真コンブオーナー制小分け、根室コンブのPRと販売

■ 持続可能な漁村地域づくりに関する事業

- ・フィッシュラン北海道など

■ 漁村地域の担い手支援に係る事業

- ・マリンナレッジサークル(漁村勉強会)開催
3回程度開催予定(7月頃、11月頃、2月頃)
場所：日本海沿岸の漁業地域、札幌など
内容：漁業者、研究者、民間企業、行政等の多様な人たちが集まり、地域の課題や様々な対策等についての意見交換を目的としています。

■ 情報収集及び調査研究

- ・調査研究業務など
- ・事業の公募など

第4号議案

平成27年度 NPO法人活動に係わる収支予算計画書(案)

会計期間：平成27年4月1日～平成28年3月31日

NPO法人マリンネットワーク

単位：円

科目	科目	前年度実績	H27予算	備考
1. 収入の部		1,455,345	1,525,200	
1. 会費収入		901,000	940,000	
	個人会員	351,000	390,000	正94人、賛36人(H27.3.31現在)
	法人会員	550,000	550,000	正49口、賛6口(H27.3.31現在)
2. 事業収入		534,200	545,000	
	漁村地域とそれ以外との交流促進事業	45,500	45,000	南かやベオーナー制真コンブ, 菌舞, 落石
	持続可能な漁村地域づくりに係る事業	0	0	フィッシュラン北海道
	漁村地域の担い手支援に係る事業	0	50,000	ナレヅジサークル参加費
	情報収集及び調査研究	342,000	300,000	浜の活力再生プラン(苫小牧), マリンビジョン報告書作成費
	その他	146,700	150,000	総会・交流会会費、原稿料など
3. 預貯金利息		145	200	
4. 寄付金等収		10,000	10,000	
5. 補助金等収		0	20,000	
6. 雑収入		10,000	10,000	
2. 支出の部		1,128,314	873,000	
1. 事業費		1,002,844	700,000	給料手当、会議費、旅費交通費計上
	①漁村地域とそれ以外との交流促進事業	55,297	45,000	南かやベオーナー制真コンブ小分け
	②持続可能な漁村地域づくりに係る事業	0	0	フィッシュラン北海道
	③漁村地域の担い手支援に係る事業	4,752	5,000	ナレヅジサークル
	④情報収集及び調査研究	106,860	150,000	
	⑤その他	835,935	500,000	総会会場費、交流会費、講師謝金など
2. 一般管理費		125,470	173,000	
	給料手当	30,000	30,000	
	消耗品	51,756	50,000	
	通信費	31,154	30,000	
	外注費	0	0	
	荷造運賃発送費	0	10,000	
	会議費	0	20,000	
	旅費交通費	0	20,000	
	租税公課	0	0	
	支払手数料	7,560	8,000	
	その他	5,000	5,000	諸会費
当期収支差額		327,031	652,200	